

2017

国語

注 意

1. 試験時間は、8:50～9:40の**50分**です。
2. 問題は ㊦ から ㊧ まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけつけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を裏返しにしておきなさい。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「私」(センリ)は妹のチエミが寝る前に歌う歌詞の意味がわからず気になっていたが、チエミにはそのことを聞けないでいた。そのころ、小学校でクラスメイトのカツラが盗み(ぬす)を働いたことを目撃したという者が現れ、カツラ自身も自慢(じまん)気にそのことを語ったため、茜(あかね)をはじめとする女子が彼女を無視しようと言い出した。しかし、「私」はそれを断り、カツラを無視しようとする女子にも、カツラにも、無関係(よそお)を装(よそお)う男子にも「うんざり」した気持ちを抱(いだ)いていた。

「センリ、それ暗号？ あるなしクイズ？」

社会科の時間。気付くとあれから一週間が過ぎていた。茜ちゃんと塔子(とうこ)ちゃんが教材室まで二枚目のモゾウシを選びに行っていて、私はひとりで残されていた。そこに、一メートル定規を運んできたカツラちゃんが通りかかったのだった。私の手元には、チエミの歌の詞があった。ひまつぶしにノートに書いてみたやつ。

- あかいめだまのさそり
- ひろげたわしのつばさ
- あおいめだまのこいぬ
- ひかりのへびのとぐろ

① 私はしばらくカツラちゃんの顔を見てぼかんとしていた。きつともものすごい間抜けな顔をしていたと思う。声をかけられても無視しないぞしないぞ、と思っていたのに、いざとなると頭の回転が止まってしまっていた。多分、長いこと口をきいていなかったからだと思う。でもカツラちゃんは、ノートを指したまま嬉(うれ)しそうに言った。

「あたし、これわかったよ」

そのひとりで、頭が動き出した。椅子(いす)から立ち上がるくらいの勢いで「え、何！」と身を乗り出すと、うす黄色い八重歯をのぞかせた笑

いが返ってきた。

「星座」

「えっ？」

私が聞き返すと、カツラちゃんはひとつひとつフレーズを指しながら説明した。

「さそりでしょ、わしでしょ、こいぬ、へび、全部星座にあるやつ。さそり座は赤い星があるから、『あかいめだまのさそり』なんでしょ。他ののは、よく知らないけど」

私は思わずノートの隅をにぎりしめた。

「そっかあ。そうなのかあ。全然思いつかなかった」

そう言うとカツラちゃんは、「兄ちゃんが星好きでね、天体望遠鏡持ってるんだ」と自慢げに口を歪めた。それからこっちに顔を寄せて、「すっげー高いやつ。こればかりはでかくて盗れないけど」と囁いた。

「ひと言余計だよ」

私が言うと、カツラちゃんは、今度は歯を見せないで笑った。ほっぺたがふくつと上がる。そのままドアのほうに目をやると、何も言わないで自分の班のほうに走っていった。茜ちゃんと塔子ちゃんが、ピンクのモゾウシを持って入ってきたところだった。

「げえ、ピンクかよ」

イシバタがぼやく。茜ちゃんが「この色、すっごい探したんだからね！」とちぐはぐな答えを返し、和也くんが「さ、字の配置決めよっかと仕切り直した。その横で私は、じつとノートに目を落としていた。早く帰ってチェミに言いたい、と思う。」

「あんたの歌、あれ、星座でしょ」って言ったら、チェミはびっくりするかな。私がカツラちゃんにびっくりしたみたいに。

② その夜は眠くならなかった。チェミの歌が始まった。寝たふりをしてからずばつと「星座でしょ！」と言い出すんだと思ったらずいぶんどきどきした。茜ちゃんににらまれたまま口を開いた時よりずっと、たくさんの汗が出た。

「星座ー」

布団から 1 と身を起こしてチェミを指さす。チェミはちよつと布団の下の背中をびくつかせて、それから③ うつとうしそ

に頭を出した。毛布から顔の上半分だけ出してこちらを見る。後悔しかけた私の目を、チェミはじつとのぞき込んだ。

「……そりやそうだけどさー、もしかしてねえちゃん、この歌知らないの？」
「は？」

チエミの作詞作曲だと思っていた私は、問いの意味を理解するまでに時間がかかった。誰かの、しかも有名な人の歌だったということらしい。

^b あっけにとられた私に、チエミが「宮沢賢治」と、ひと言放つ。

「そうなの？」

「そうだよ」

もしかして、ずっとなぞなぞ歌だと思って考えてたの、とチエミが言ったのにならずくと、大声で笑われた。

「何、ずっと考えてたの、こんなの？ えー？」

ばかじゃん、とチエミは言った。でもそのまま、むくりと起き上がって手招きした。ちょっと来て、とすぐ隣となりにあるふすまを開ける。お父さんとお母さんの寝室の六畳間ろくじょうま。ふたりともまだ居間に居るのか、姿はない。隅に布団が積んであって、真ん中には 2 と闇やみが集まった空間があるだけだ。私たちふたりは何とはなしに背中を丸めて、こっそりと部屋に入った。

「見て」

チエミが囁く。指さした先、^④ 天井の照明の右側に、小さな点が七つひかっていた。デンキのあかりじゃない、蛍光塗料のうつすらとしたひかり。そのひかりでできた七つの点がひしゃくのかたちを描いていることは、すぐにわかった。

「北斗七星？」

私が言うと、チエミが隣で小さくうなずいた。

「あたし注1ぜんそくだったじゃん。だから、夜の冷たい空気はよくないとか言って、星、見られなくて」

「うそ」

全然知らなかった。でも私は、チエミが小さい頃ころ、お父さんとお母さんに守られるようにこっちの寝室しんしつで眠っていたのを憶おぼえている。つまり、この星はチエミのために天井にくつつけられたのだ。お父さんかお母さんの手によって。

「あの歌も、お母さんがうたってくれたんだよ。ねえちゃん、3 寝てたから知らないんだらうけど」

暗闇に慣れてきたのか、横を見たらチエミがまぶしそうに偽物にせものの星をあおぐのが見えた。私は「そっかあ」とだけつぶやいて膝ひざを抱かかえる。

布団の中で、お母さんの歌を聞きながら、チエミはきつと今と同じまぶしそうな顔をしていたんだろう。

⑤ 私が知らない顔は、まだいっぱいある。チエミにもカツラちゃんにも、クラスの他のみんなにも、多分。うんざりしたり、さみしくなったりするのはまだ早いんだ。

そう思ったなら、⑥ 久しぶりに、なんだか安心してしまつて、早くもまぶたが下りそうになつた。マンガみたいな星形に切り抜かれた蓄光チップ(注2)のひかりが七つ、私とチエミを照らしている。

『だって星はめぐるから』豊島ミホ(注1)の文章による

(注1) ぜんそく…発作的にせきが出て呼吸困難になる病気。

(注2) 蓄光チップ…電気を消したときに光る素材。

問一 波線部 a・b の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

a ちぐはぐ

- ア あきれたような
- イ ばかにした
- ウ とりつくろうような
- エ かみあわない
- オ まちがった

b あっけにとられた

- ア 意表をつかれて驚いた
- イ 思いもよらずに困惑(こんわく)した
- ウ 突然のことでおそろしくなった
- エ 初めてのことでまどった
- オ 予想外で残念に思った

問二 空欄 1 3 に入る適切な語を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア ぐっすり イ はっきり ウ のんびり エ ぼっかり オ がぼり

問三 傍線部①「私はしばらくカツラちゃんの顔を見てぼかんとしていた」とありますが、そのときの「私」の気持ちを説明したものと最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 茜ちゃんから無視をするように言われていて話をしていなかったのに、声をかけられ迷惑に感じている。
イ バカにしていたカツラちゃんの口からチエミの歌の意味を聞いて、情けない気持ちになっている。
ウ 無視しないように思いながらもカツラちゃんから急に声をかけられて、うろたえてしまっている。
エ 他の人に知られないようにノートに書いた歌詞を、一番見られたくない人に見られてあせっている。
オ 無視していることを後ろめたく思っていた時にカツラちゃんに声をかけられ、申し訳なく思っている。

問四 傍線部②「その夜は眠くならなかった」とありますが、それはなぜですか。四十字以内で説明しなさい。

問五 傍線部③「うっとうしそうに頭を出した」とありますが、この時の「チエミ」の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 姉に隠れて歌って気づかれていないと思っていたのに、そのことを言われたので驚いている。
イ 姉に気づかれないようにこっそり歌っていたのに、寝たふりをして聞いていたことにあきれている。
ウ 歌をうたって気持ちよく寝ようと思っていたのに、姉がその邪魔をしたので腹を立てている。
エ だれにも教えるつもりはなかった歌なのに、姉がそれを無視して質問してくることに落胆している。
オ だれでも知っているような歌詞なのに、姉が大げさにその話を持ち出したので面倒に思っている。

問六 傍線部④「天井の照明の右側に、小さな点が七つひかっていた」とありますが、この天井の「小さな点」に「センリ」はどのようなものを感じていますか。その説明として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア からだが弱く外に出ることを禁じられていたチエミの外に出たいという強い願い。

イ ぜんそくのチエミがいたためにひとりぼっちで寝ていた「私」の寂しさ。

ウ ぜんそくのために星を見ることができなかったチエミを思いやる父や母の愛情。

エ からだが弱く一人だけ夜空の星を見ることができなかったチエミの孤独感。

オ ぜんそくのために「私」よりも両親に大切にされていたチエミの優越感。

問七 傍線部⑤「私が知らない顔は、まだいっぱいある」とありますが、ここでの「顔」の意味としてふさわしくないものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 性格 イ 表情 ウ 過去 エ 気持ち オ 生活

問八 傍線部⑥「久しぶりに、なんだか安心してしまっただけ」とありますが、この時の「センリ」の気持ちの変化をわかりやすく説明しなさい。

問九 この作品の特徴を説明したものとして適当なものにはA、不適當なものにはBと答えなさい。

ア 短い文章を連ねることで、テンポよく読めるようになっていく。

イ 体言止めや省略法を用いることで、センリがその時感じたことを強く表している。

ウ 会話文を多く用いることで、作品中の人物の様子を生き生きと表現している。

エ 人の名前や物の名前にカタカナを用いることで、センリの幼稚さを表している。

オ 過去を表す語と現在を表す語を混在させることで、人間関係の複雑さを暗に示している。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

料理の味付けや調味料にはたくさん種類がある。塩や砂糖はもとより、ウスターソースやカレー風味、オリーブ油、コンソメ、コチュジャン、ケチャップやマヨネーズなどなど、日本で使われている調味料は無数にある。どれも重要な味である。そのなかで、なぜ、①ダシのおいしさをわざわざ強調する必要があるのだろうか。

ダシのおいしさは、単に料理の味を引き立てるだけではない。様々な意味を持っている。料理をはじめ食べるものについて、人は保守的である。祖国や故郷を思い出させるのも料理である。それ故、食べ物はその国の国民のアイデンティティーの一部となっている。そのなかでも、ダシの味は料理の味の基本である。ところが、ダシへの嗜好をはじめ、味の好き嫌いは、後天的な学習によって成立したものである。教えないと好きにならない。国民のアイデンティティーといえども学習して獲得するものなのだ。

②料理や味に関して言えば、絶対的においしいものなんて無い。これは重要である。甘味など一部の基本味は生まれつき人間として好むようになっていく。しかし、料理のような複雑な味は遺伝的に好き嫌いが決まっているものではない。おいしさは教えられるものである。日本人が日本食やカツオ・昆布ダシを好きなのは親たちに教えられたからである。大人が教えなければ、アメリカの人と同じく日本のダシのおいしさは生涯わからない。③親はダシのおいしさを子供に教えなければならぬのだ。

日本の伝統であるダシを好きになることは、大人になってからの健康にとっても好ましい。ご飯とダシを中心とした日本の伝統的な食事は、欧米の標準的な食事に比べるとカロリーが低く、脂肪含量が低く、食物繊維は多いなど、生活習慣病のリスクとなる要因が少ない。ダシのおいしさを知る人間は、日本の食事を好む。だから、将来の健康のためにも、ダシのおいしさを知ることが大事なのである。長い歴史のなかで生き残ってきた④日本のダシの味を、簡単に捨てるのは危険である。

脂肪や砂糖の味とダシのおいしさは、同じメカニズムで満足感を与えてくれる。どれを選んでも満足できるならば、ダシを中心とした食事のほうが健康に良さそうだ。

日本のカツオダシの文化は、室町時代からの伝統を持つ味覚の文化である。宗教的な制約や牧畜民族ではなくて農耕民族であったことなど、多くの偶然が重なって、油脂を多用せずにダシのおいしさで満足する文化が生まれた。現代人の健康という面から見れば、ダシの文化を持つたことは、非常な偶然の幸運である。

現代人の食生活は常に過食の危険に迫られている。⑤一歩間違えば、肥満、糖尿病、高脂血症、高血圧などが待っている。死の四重奏と

かメタボリック・シンドロームとか脅かされる。特効薬はない。生活習慣を改めるしかない。

食べ物はいくらでも手に入る。しかもおいしい。食べたいけれど、健康が気になる。そんなときに、日本の伝統的な料理と満足感は光っている。a と b とが両立できる世界にも希な食体系なのである。主役はもちろんダシの満足感とご飯。野菜をダシで煮るとや魚を好むことはどれも健康的な食生活に繋がる。

多くの国では満足感を得るために、油脂を大量に摂取する。デザートには砂糖などもよく使う。いずれもやみつきになる食品である。一方、日本型のやみつき感ダシの香りとうま味で達成できる。うま味の主成分はアミノ酸であり、ゲンピン程度のカロリーに過ぎない。塩分は必要だが、それも生理的な範囲と言えよう。無理して減塩するよりもダシのおいしさと塩加減を極めて欲しい。

⑥ 油脂と砂糖が乏しかった。そのおかげでダシの文化が開いた。今こそ先人の知恵を活かすときである。⑦ ダシのおいしさ。日本発の健康食を世界に発信すべきである。

『おいしさを科学する』伏木亨の文章による

(注1) アイデンティティー：自己の位置づけ。自分が自分であるという確信。

(注2) 嗜好：人それぞれに異なる(食物の)好み。

(注3) 同じメカニズム：脳内物質を刺激しておいしいを感じさせ、「ほしい」という感覚を強くする。

(注4) メタボリック・シンドローム：内臓脂肪による肥満を原因とする症状。

問一 波線部A「後天的」B「複雑」の反対の意味で使われている言葉を本文中から見つけ、抜き出さない。

問二 傍線部①「ダシのおいしさをわざわざ強調する」理由として、ふさわしくないものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア ダシはおいしいもので、味の基本になるものだから。

イ ダシは日本国民のアイデンティティーの一部となるものだから。

ウ ダシは後天的な学習によって成立するものだから。

エ ダシを中心とした料理は健康にとって好ましいことだから。

オ ダシを使った食事をしないと生活習慣病になるから。

問三 傍線部②「料理や味に関して言えば、絶対的においしいものなんて無い」のはなぜですか。本文中の言葉を使って、三十五字以内で答えなさい。

問四 傍線部③「親はダシのおいしさを子供に教えなければならぬ」理由として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 日本はたくさん調味料を使って複雑な料理を作るため。
- イ 日本人としてのアイデンティティーを獲得させるため。
- ウ 料理のような複雑な味わいの好き嫌いは遺伝的に決まっているため。
- エ ダシと油脂のおいしさを両方ともわかるようにするため。
- オ 現代人の食生活は過食の危険に迫られているため。

問五 「欧米の食事」と「日本の食事」の異なる点を、「日本の食事は、欧米の食事と比べると……」に続くかたちで三点あげなさい。

問六 傍線部④「日本のダシの味わいを、簡単に捨てるのは危険である」と筆者が考えているのは、なぜですか。最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア ダシの味わいを一度捨てる、二度とダシの良さをわかることができなくなるから。
- イ 日本の伝統的な食事がなくなり、欧米のように油脂を調味料にするようになるから。
- ウ 過食の危険のある現代人の健康を保つためには、ダシを使った食事が望ましいから。
- エ ダシにはうま味があり、やみつき感が生じる点で、砂糖や油脂より優れているから。
- オ 生活習慣病にならないようにするためには、ダシを使った食事をするしかないから。

問七 傍線部⑤「一歩間違えば」とはどうすることですか。最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 現代人の食生活を続け、高カロリーを放置していくこと。
- イ 日本の伝統的な食事がなくなり、日本人のアイデンティティを失うこと。
- ウ 日本人の生活習慣を改め、欧米の食事の良いところを見習うこと。
- エ 日本人のようにダシを使った健康的な食事をするように心がけること。
- オ 現代人の健康にとって非常な偶然の幸運を生かさなさいこと。

問八 空欄 a b に入る言葉を本文中から抜き出して答えなさい。ただし、aは漢字二字、bはひらがな四字とします。

問九 傍線部⑥「油脂と砂糖が乏しかった」のうち、「油脂」が乏しかったのはなぜですか。その理由を一つ、「くから」に続くかたちで、本文中より十字以内で抜き出さなさい。

問十 傍線部⑦「ダシのおいしさ。日本発の健康食を世界に発信すべきである」のは何のためですか。五十字以内で答えなさい。

三 次の①～⑤の傍線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① チームのケツソクリヨクを高める。
- ② センモンカの意見に耳を傾ける。
- ③ 福祉の町づくりをスイシンする。
- ④ 長い時代をへて洗練された言葉。
- ⑤ ホウドウ番組を欠かさず観る。

注意
一字制限の問題では、句読点も一字として数えます。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|--|--|----|----|----|----|-----|-------------------|-----|--|--|----|----|----|-----|--|--|----|----|----|-----|--|--|----|----|----|
| ④ | ① | 問 十 | | | 問九 | 問八 | 問七 | 問六 | 問 五 | 問四 | 問 三 | | | 問二 | 問一 | 問九 | 問 八 | | | 問七 | 問六 | 問五 | 問 四 | | | 問三 | 問二 | 問一 |
| て | | | | | a | | | | ① | 日本の食事は、欧米の食事と比べると | | | | | A | ア | | | | | | | | | | | 1 | a |
| ⑤ | ② | | | | b | | | | ② | | | | | | B | イ | | | | | | | | | | 2 | b | |
| | ③ | | | | | | | | ③ | | | | | | | ウ | | | | | | | | | | 3 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | エ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | オ | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |